

【市議会最前線】身近な議会を目指し、多様なアプローチを試みます＝善通寺市（香川県）

26/07/15 08:00 Nf001

善通寺市議会では、市民の意思を市政に反映するとともに、市民の力を市政に生かすことを目指し、平成17年3月に議会基本条例を制定し、市民、市及び議会による情報共有及び市民参画の実現に取り組んでおり、平成24年2月からは、条例に基づき、議会広報活動と市民の多様な参画機会を創出するため、市内8地区の公民館において、議会報告会を開催してきました。

しかし、この議会報告会は回数を重ねるにつれて、参加する市民の減少と固定化が進んだことから、報告会を続けていくことの意義が、議会内で問われるようになりました。

この問題について、広報広聴委員会において議論を重ねた結果、漫然と情報を発信するこれまでの「報告会」ではなく、対象を絞り対話により意見を拾い上げる「意見交換会」という形で続けていくことになり、まず、平成29年度（平成30年3月開催）は「子育て世代の市民」を対象とし、翌年度（平成31年1月開催）には「地域経済を支えている事業主」を対象とした意見交換会を開催しました。

令和元年度は新型コロナウイルス感染症の流行から、予定していた意見交換会は中止せざるを得なくなりましたが、流行が落ち着き始めた令和4年度（令和4年8月開催）には、「小・中学生」に対する主権者教育と併せて意見交換を行いました。

また、若者に議会に対して関心を持ってもらうための情報発信として、令和4年9月からは、インターネット動画投稿サイトで本会議の動画配信を開始したほか、令和6年7月からは、若い世代に人気のある写真投稿型SNSに、行政視察の様子などの写真を掲載し、そこから動画サイトや市議会ホームページに誘導する試みを行っています。

そのほか、高齢者の意見を拾い上げるため、令和6年8月からは、善通寺市社会福祉協議会が行っている地域の仲間づくりの場である「ふれあい・いきいきサロン」のいつもの茶話会の場所を議会（委員会室）に移し、そこに議員が加わっておしゃべりをする「議会deサロン」を始めるなど、情報発信と対話の場の創出に努めています。

これからも、議会が市民にとって身近な存在になるよう、さまざまにアプローチを続けていきます。（了）



高齢者らの茶話会に市議も加わった「議会deサロン」